

祭りを大切にしようという 江差の皆さんの思い

夏休みは1泊2日で檜山の江差に行って、姥神大神宮渡御祭（うばがみだいじんぐう・とぎょさい）」を初めて見てきました。武者人形、能楽人形、文楽人形、歌舞伎人形などを配した豪華な13台のヤマ（山車のことですが）が練り歩く370年あまりの歴史をもつ北海道最古のお祭りです。北海道指定無形民俗文化財にもなっています。

8月10日の古（いにしえ）街道を通る下町巡業を見たのですが、年配の方々はもちろん、若い人たちがとても元気で、こちらもたくさんエネルギーをもらってきました。街道で偶然お会いした江差が実家の元遺愛講師の先生の案内で、ある御家にあがることができました。「結構なお祭りです。」と言って、家にあげてもらったのが流儀だと教わり、その通り言うとお酒や食事がふるまわれ、そのあたたかさにはびっくりしました。その家には、やはり偶然にも遺愛の卒業生（中学時代の友人の嫁ぎ先）や在校生（友達の知り合いで、初めて来たそうです。）もいて、楽しい一時を過ごしました。

とても驚いたことがありました。それは次の日の早朝、いつものように旅ヲ10キロを走ろうと江差の街中、かもめ島をまわって、昨晚祭りで盛り上がった古（いにしえ）街道に行ってみると、ゴミ一つ落ちていないのです。普通、祭りの後の朝だから、至るところにゴミが散乱しているだろうと思って行ったのですが、掃き



清めたかのようにきれいでした。江差の人たちの祭りを大切にしようという思いがとても伝わってきました。

2019年8月13日（火）